令和４年度　第２回　曳馬中学校運営協議会　会議録（要点記録）

１　開 催 日 時　　令和４年10月13日（水）　10時00分から12時00分まで
（10:15～10:50は授業参観）
２　開 催 場 所　　曳馬中学校　会議室
３　出 席 委 員　　鈴木　芳次、熊谷　義廣、太田　悦則、
平間　良明、池村　俊典
４　欠 席 委 員　　髙山　良子、佐藤　洋子、鈴木　哲也
５　オブザーバー　　瀧　尚也（曳馬協働センター）
６　教育委員会　　鈴木　陽子（教育総務課）
７　学　　校　　玉木　言明（校長）、平原　政和（教頭）、牧野　知子（教頭）、
鈴木　亮（主幹教諭・ＣＳ担当）、今田　明子（ＣＳディレクター）
８　傍　聴　者　　なし
９　協 議 事 項
（１）　議長の選出について
（２）　学校経営方針についての経過報告
（３）　夢育やらまいか事業進行状況等報告
（４）　学校評価について
（５）　地域人材活用等推進のための協議
（６）　その他
１０　会議記録作成　ＣＳディレクター　今田　明子
１１　会 議 記 録

司会の鈴木亮より、委員総数８人のうち５人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。
熟議に先立ち、会長挨拶、校長挨拶、授業参観を行った。

（１）　議長の選出について
司会から、議長の選出について前回協議会でお願いした太田委員でよいか確認したところ、全員異議なくこれを承認した。

（２）　学校経営方針についての経過報告
議長の指示により、校長玉木から、学校運営基本方針についての次のように経過報告があった。
「自分らしさを大切にし、よりよい集団づくりに取り組む生徒の育成」を目標とし、行事や部活動に取り組んできた。コロナ禍ではあるが、育成会やPTAの活動も行えるようになり、学校行事の公開なども工夫しながら行えるようになってきている。集団づくりについては、担任を中心に学級づくりを大切に行っている。
うまく集団に入れない生徒や不登校生徒も一定数おり、校内適応指導教室（まつば教

室）に通う生徒もいる。教室復帰を目指しているが、原因が多岐に渡るため個別に対応している。いじめも全くないわけではなく、保護者や生徒からの心配の声もあるが、スピード感をもって対応に当たっている。
地区社協や協働センターとの連携も強化している。実際、協働センターまつりには中学生ボランティアが30名ほど参加する予定になっている。
2年生の職場体験も地域や社会とのつながりを大切にとの思いを持ってやっている。

（３） 夢育やらまいか事業進行状況等報告
議長の指示により、教頭平原から、夢育やらまいか事業推進状況について次のように報告があった。
・部活動の横断幕作成：駅伝部の西部大会後作成する
・部活の成績に関する広報誌作成：予算的に厳しいので、学校だよりで地域に知らせる
・職場体験の発送費：履歴書やお礼の発送費に使う予定

（２）（３）について委員からは以下の発言があった。
・不登校生徒の人数はどのくらいか？コロナ禍を要因とする不登校はあるか？校外適応指導教室に行っている子もいるか？不登校生徒の進学はなっているか？（平間委員）→不登校と定義される30日以上の欠席者は50名ほど。特定の学年への偏りはない。コロナ禍を要因とする不登校生徒はいる。それが引き金になっただけか、原因なのかは不明。1年生は入学当初は不登校生徒の数が少なかったが5月には15人ほどになった。校内適応指導教室に毎日通う子もいる（出席扱い）。校外適応指導教室に通う子もいる（出席扱い）。卒業生で通信制高校などを活用して、次のステップに進める子もいる（玉木校長）
不登校生徒は多いですよね？（芳次委員）→増えている（玉木校長）
いじめが原因とはっきりしている子はいるか？いじめている側が普通に登校し、いじめられている側が学校に来られなくなるのはおかしいと感じる（太田委員）→いない。いじめは重大事態という扱いで、学校だけでなく教育委員会も入って対応する。ただすぐの把握は難しく、後々不登校の原因がいじめだったとわかることも他校ではある（玉木校長）
不登校の内容（原因）は？（芳次委員）→不適応（教室に入れない）が多い。その他、家庭で生活リズムが作れない、怠惰、朝起きられない、部活でうまくいかないなど原因は多岐に渡る（玉木校長）
生活の問題であれば改善に向かっているか？（熊谷委員）→家庭の中で心配な生徒については児童委員・民生委員に報告している。保護者から相談がある場合は社会福祉課への相談もすすめている。SSW（スクールソーシャルワーカー）に入ってもらうこともある。学校だけでは、すべての家庭の中に入るのは難しいので、そのように対応している。（玉木校長）
情報交換会では民生委員が話を聞いて生活に入っていくという話になっている。協

力できることがあればする（熊谷委員）→前回情報交換会の時に１件詳しく話をさせていただいた。それ以外では、夜遅くまでオンラインゲームなどをし、朝起きられないというのが増えている（玉木校長）
いじめの認知についてはどうか？（熊谷委員）→本人がつらいと感じていればいじめと定義し対応していく（玉木校長）

（４） 学校評価について

議長の指示により、鈴木亮から、資料に基づき学校評価について次のように説明があった。

・保護者は学習面ついて不安を感じているが、生徒はそうではないことから、校内学習の様子についてブログやたよりで発信していく必要性を感じる
・2 年生に関して、自信をもって「できている」と回答している割合が減っていることから、生徒たちができていると思えるような指導をしていく必要性を感じる
・アンケート内の記述項目については、学校だよりで返答した

これに対し、委員からは以下の発言があった。

・保護者と生徒のアンケート結果に差がある。学校での勉強の様子が家庭に伝わっていないのでは？2 年生で「できている」の割合が減っている要因を把握すべきでは？（芳次委員）→2 年生が一番不安定な時期で、いじめの件数もピークとなる。3 年生になると落ち着いてくる。成長の過程が出ている可能性もある。2 年生から 3 年生で勉強意欲がぐっと上がる子と停滞する子に分かれる（玉木校長）
・アンケートを取る時期と比較する意味に検討の余地があるのでは？学習過程的にその時期では答えにくい項目があるので、同じ学期同士で比較しないと意味がないのでは？（平間委員）
・職場体験について、昨年度子供が体験したい職場に行けるような配慮をとお願いしたが今年度はどうか？（太田委員）→生徒にアンケートし、必ずしも第１希望ではないが、希望として挙げているところに割り振った（亮）
数人のグループで体験に入るときに、使い走りにされる子が入っていると 2 日間の活動に問題があるのでは？→そうならないように、慎重に組み合わせをしている（亮）
・職場体験の意義は？（芳次委員）→話を聞くだけではなく、実際に目で見て、体験して感じるための活動。将来の目標が決まっている子ばかりではない（亮）
将来の目標が決まっていない子は体験してわかることもある。希望性ではなくて、いろいろな業種を体験することも発見がありいいのでは？（熊谷委員）→学習過程もあり、2 日間という限られた日数での対応になる。（亮）職場体験を通じ、「働く」ということについて考える必要がある。将来の夢や希望だけでなく、「働く」ということをベースに感じてほしいと思っている。夢や希望は叶わないこともあるので（玉木校長）
叶わないことの方が多いから、いろんな体験をさせてあげたい（熊谷委員）

自分の子も職場体験で影響を受けた。産業・企業側からも雇用の面でメリットがある（平間委員）
工場見学もさせてあげたい（太田委員）

・アンケートの内容はどこの学校も同じか？（池村委員）→学校ごとに異なる（亮）
小学校で先生を対象としたアンケートを協議会委員で見たが、先生の苦労がわかり、それに対してどう応えられるかと考えさせられた。曳馬中では先生へのアンケートはしているのか？協議会に出すかどうかは学校に委ねられると思うが、先生方の声に対して地域がどう答えていくのかを考えなくてはいけないと思う（池村委員）

（５） 地域人材活用等推進のための協議

議長の指示により、鈴木亮から、地域人材活用推進について次のように説明があった。

・職場体験について、2 年生約 260 名分を確保する必要があった。職員とコーディネーターの佐藤さんで当たった。コロナの影響で、難しいと言われたり、人数を絞っての受け入れだったりしたが、何とか人数分の受け入れ先を確保できた。来年度以降も継続的に受け入れ先を確保するため、協働センターだよりで呼びかけ、窓口になってもらっている。他に受け入れ先確保のためのご意見をいただきたい。
・部活動指導員や ICT 支援員等も必要になる。

これに対し、委員からはすぐに意見が出なかったので、今後の課題とする。

（６） その他

・浜松市教育委員会より
委員皆さんが当事者意識を持ったとても良い協議会だったと思う。
・協働センターより
協働センターまつりへの中学生ボランティアの協力してもらっている。
職場体験については、地元企業の CSR 活動も絡めて協力していく。
・今後の予定
今後の開催予定について説明があった。
第 3 回運営協議会：令和５年 ２月 14 日（火）10:00～12:00

以上